

令和5年度 横浜市吉野町市民プラザ 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

評価項目		令和5年度計画		実施状況		評価			
I 文化事業	指定管理者提案(要旨)	取組内容	目標	実績	説明	自己評価	行政評価		
1 文化芸術活動をはじめとする市民の活動の場となる(使命1)	1 利用者の気持ちにそった施設運営	定期的な利用者の継続を促進	□定期的に利用する団体・個人に優先枠を適用するウェルカム・プラザ制度を実施	30団体	9団体	優先定期利用について、毎月9団体で継続利用いただいている。(うち1団体は優先定期利用だがウェルカム制度とは別の協力事業として協定を締結している)一方、優先利用は年間で25件の申込みがあり今年度新規の団体申込みは1件。ギャラリーの定期利用については昨年度に引き続き団体維持が難しいという状態で活動継続が困難となっている団体があり、引き続き課題となっている。優先定期利用促進の為、新規に個人・団体に向け引き続き提案する。	【成果】 定期的にご利用いただいている団体及び個人については、昨年度より継続して利用をいただくことができた。今年度は施設利用についての調査の為、「利用者アンケート」を実施した。また利用者アンケートに事業参加に積極的な市民団体を対象にして、新規事業「来て見て市民プラザ」の事業として、「来て見て市民団体クラシック・吹奏楽演奏会」と題して新規事業を開催した。一般来場者は事前予約で公募募集し、公開練習及び公演という形をとった。出演は5団体でそれぞれ来場者へ向けて団体紹介や活動参加者募集、イベント告知などをPRしてもらった。また出演団体同士の交流を図る為、会場に出演団体の席も用意した。イベント終了後には出演者を集まっていたいただき、出演者同士で情報共有等を行う交流会を実施した。 【課題】 継続利用いただいている団体からは一定の評価をいただいたが、定期利用の団体数を増やしていくには、施設告知の充実を図ること及び利用団体を増やす為の新規事業(来て見て市民プラザ他)を充実させる必要がある。来て見て市民プラザの企画として「来て見て！市民団体クラシック・吹奏楽演奏会」を第1回目として開催したが、反省点を踏まえ来年度以降の企画内容については再度検討して事業実施する。	【評価できる点】 ・定期的に利用する団体・個人に優先する枠として、「ウェルカムプラザ制度」を実施し、利用者が継続的に利用しやすい環境を作ったことについては、市民の活動の場として実施していることが確認できます。 ・「来て見て市民プラザ」で吉野町市民プラザを周知するとともに、地域で活動する団体と市民プラザ利用者を繋ぐために、多くの来場者に団体の活動を周知できたことは評価できます。 【更なる取組を期待する点】 ・個人及び団体利用している方へ引き続きアンケートを実施し、どのような声があったのかを収集及び分析し、今後の事業を実施に向けた取組へ生かせるよう期待しています。	
		施設の本番利用を応援	■利用促進のため、リハーサル割引期間拡大や若年層のギャラリー利用(U25)プランを整理し、書類を整えて横浜市に申請する	実施	実施	ギャラリー利用プラン(U25)の申込みは1件。リハーサル割引期間の拡大については、利用促進までに至らなかった。今後本番利用を応援する取組を継続する。			
	2 施設の周知と利用団体の紹介	市民への施設周知	□施設紹介動画の作成、公開	実施	実施	令和5年3月よりHPで施設紹介の動画を公開し、継続してHP上で公開。アクセスについても動画を継続公開し、初めて利用する方にもわかりやすく施設を紹介した。			
		利用者の把握と貢献	□地域の親子を対象に施設見学会「たんけんツアー」の実施	1回	1回 6組12名	事前予約から8名のキャンセルがでてしまった為、参加者としては昨年並みとなった。ホールの仕組みやバックヤードを紹介し、参加者から満足度の高い声をいただいた。			
		利用者拡大への新規事業	■地域で活動する団体と市民プラザの利用者をつなぐ「来て見て市民プラザ」を実施する。	実施	1回 220名	市民プラザを練習利用している団体にイベント出演を提案し5団体の出演を実現。また、公開練習・演奏会として一般公開し来場者を公募した。			
		施設の特色のPR	□朝からグランドピアノ	参加者 120人	参加者 163名	昨年度に比べ参加者は4割増加した。施設の利用促進及び新規利用者の来場促進の為、年間を通して周知徹底を図った。合わせてホール利用促進の為「ホールでグランドピアノ」のイベントを年2回開催。「朝からグランドピアノ」と合わせて広告を展開した。			
2 文化芸術活動への参加の機会を提供する(使命2)	1 多様な糸口をもったあいの事業の開催	地域交流やであいの場を提供	□手作り作品を販売する「アートアンドクラフト・マーケット2023」	2回 出展者80人	2回 6月出展者:84人 10月出展者:54人	年2回開催。10月(秋口)は世間的にコロナ禍明けの為、イベント開催を復活させている主催者が多く、出展者数は目標を下回った。年2回開催することにより、手作り体験ができる店舗も計15店舗設置することができ、夏秋を通じ市民に交流の機会を提供した。	【成果】 R5年度はアート&クラフトマーケットを年2回、ギター講座を年3回、「ホールでグランドピアノ」を年2回開催するなどイベント開催についてはコロナ禍前の水準に戻しイベント開催をすることができた。また、今年度は、近隣小学校に地域協力をし、物づくり体験の取組みや3館連携事業(インクルーシブ)に取組み、近隣の小学生または障害者の参加事業としてイベント参加する機会及びステージ上での発表の場を提供することができた。また、インクルーシブ事業として岩間市民プラザにある借恵いわまワークス利用者の作品を、3館連携事業としてイベント日及び管内ホールバックストリートギャラリーに展示する事業を企画して、横浜トリエンナーレ応援プログラムに申請する等の活動を行った。 【課題】 夏休みおやこ映像講座ではイベント参加者の制作した映像をホームページ上で公開し、一般視聴できるように調整した。また吉野町音楽空間ではステージ公演を収録し、出演曲の一部を視聴できるように準備した。今年度はホームページリニューアルに向けて調整したが、公開は令和6年度に行う予定。アーカイブページの開設など、市民プラザからの情報発信について整えていく。	【評価できる点】 ・芸術・文化活動への参加機会を提供するために、様々なワークショップやライブイベントを実施し、一部の事業については、利用者が指標を上回る結果を得たことが確認できます。使命2の文化芸術活動へ参加の機会を提供するという取組を実施した結果であり、評価できます。 【更なる取組を期待する点】 ・おおむね目標どおり事業を実施することが確認できます。参加人数が満たなかった事業については、集客や広報方法を検討し、新たな来館者が得られることを期待しております。	
		幅広い年齢層への利用促進	□親子で鑑賞「わくわくコンサート/体験ワークショップ」	1回	1回 25名	1日ギター教室を開催した同日に、イベント参加者へギター講師によるミニコンサートを開催。親子参加に対応する若い世代から支持を受けているアーティストの曲を披露した。			
	2 アウトリーチ事業の実施	オンラインでのイベント開催	□プラザ発・お届けイベント	1回 2館で8組	計画・準備	今期はコロナ禍明けのタイミングとなり、リアルイベントに注力した。吉野町音楽空間のステージを収録し、出演者の曲をHPで公開することとし、イベントに参加できなかった方も視聴ができるよう、動画配信の準備実施。			
		学校とアートをつなぐプログラムの提供	□横浜市芸術文化教育プラットフォーム学校プログラム	5校	5校実施	箏の体験を中心に、スティールパンやタップダンスの体験、また和太鼓体験など小中学生へ文化芸術体験ができる機会を提供した。また、昨年に引き続き特別支援学校の生徒へ生演奏(アコースティックギター、ピアノ)をして演奏鑑賞していただくなどの取組みを行った。			
		地域との連携や協働事業の展開	□まるごとみなみ施設間連携事業	1回	1回	「竹の灯籠」を作成したい日枝小3年生の担任教諭に南区の取り組み「街の先生」を紹介及び実施できるよう調整した。作成した「竹の灯籠」は「光のふろむなあと」で展示して、日枝小学校3年2組の生徒によるイベント「水辺の光コンサート」で活動発表を行った。			
			横浜芸術アクション事業への参加	□「横浜トリエンナーレ」関連事業	1回	1回			第8回横浜トリエンナーレ応援プログラムに登録する企画として、借恵いわまワークス(岩間市民プラザ)利用者の作品を管内ホールバックストリートギャラリーに「街ナカアートin管内」として展示。3館連携事業のスクランブルダンス・ダンスプロジェクト公演日にも管内小ホールホールウェイに同じく借恵いわまワークス利用者の作品を展示し、イベント参加者の方に鑑賞いただけるよう展示方法を工夫した。
	3 文化芸術の体験講座の実施	映像講座と利用者コンテンツ配信の提供	□市民プラザチャンネル	1回 参加者10人	1回 6組13名	映像講座は、「夏休みおやこ映像講座」として開催。スマートフォンで撮影した映像を編集し、WEB上で公開(アップロード)するところまでをイベントで学べるようプログラムを企画した。イベント参加者の映像作品は、吉野町ホームページでも公開した。			
		市民とともに創り上げる、創作ワークショップと発表機会の提供	□ギターワークショップ	1回 参加者20人	3回 66名 (平均1回22名)	年間スケジュールで、初級編から中級編までのスケジュールを組み、それぞれの対象者用にプログラムを3回実施した。チャレンジ・ザ・ギター講座では、講座に続き発表会を開催。芸術活動への参加機会を提供し、今年度講座参加のメンバーから新たなグループが一つでき、継続してギターを学ぶグループが結成された。			
	□写真撮影講座		1回 参加者20人	1回 6名	昨年度同様に、吉野町音楽空間Vol.7と同日にイベントを開催した。ステージを教材として撮影する企画は参加者の満足度は高く、参加者した方全員より次回も写真講座を開催して欲しいというアンケート結果がでている。				

令和5年度 横浜市吉野町市民プラザ 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

3 次世代を担う人材を育む (使命3)	1 子どもや親子が文化芸術体験の芽を育めるような事業の開催		□キッズアート講座	1回	1回 18名	今年度の講座は食品サンプル作りを開催した。講師に市民講師(アート&クラフトマーケット参加者)を調整し、市民の文化芸術活動の可能性を広げる場としてもイベント内容を調整した。	【成果】 近隣小学校と連携し「竹の灯籠づくり」を実施した。制作した作品は、地域のイベント「光のぶらむなあと」で展示して、「水辺の光コンサート」で活動発表を行った。チケットのジュニア割引については、若手落語会のために12月に開催した若手ギタリストのカルテット「LIBERTA(リベルタ)」公演を実施し、学生券として割引販売を行った。昨年度に引き続き「吉野町音楽空間」では岩間市民プラザと2館連携として開催し、広報協力をみどりアートパークと行った。水辺の光コンサートでは出演者募集を実行委員会に協力し、イベント運営では地域の出演者とステージ出演にあたり内容を調整しスムーズな運営を心掛けた。また事業企画としてソーシャルインクルージョンをテーマに、障害者と健常者が同じチームとして参加する地域ダンス団体と共催し、ダンスイベントを開催した。 【課題】 今年度は若手芸術家支援として、若手ギタリストのカルテットLIBERTA(リベルタ)公演を開催した。文化施設のホール公演は初めての開催となった。一般来場者の年齢層も普段のイベント平均より若く、アンケート結果は好評であった。地域のアーティストの支援としてステージや活動の場を新たに提供できるよう来年度も企画調整する。	【評価できる点】 ・地元小学校からの依頼を受け、文化芸術体験ができ、12月のイベントで展示した取組については、使命3の次世代を担う人材を育むであり、評価できます。 ・若手の芸術家の支援をするために、「若手落語会」やギターカルテット公演の活動を支援しつつ、若年層の来館者を得るための取組として、学生割引を実施し、若年層が参加しやすい環境を整えたことについて、評価できます。 【更なる取組を期待する点】 ・若手芸術家を支援したことで若年層が施設へ来館するきっかけとなること確認できました。アーティストを支援するとともに、継続して若年層が参加しやすい企画を検討してください。
			□吉野町アート空間	1回	1回 20名	日枝小学校教諭(3年生担任)から依頼があり、街の先生(南区登録講師)と共に3年生に竹の灯籠づくりを調整し開催した。生徒の作品は、12月のイベント「光のぶらむなあと」に展示し、水辺の光コンサートでも活動発表を行った。		
	2 子どもたちの芸術活動の機会の創出		□横浜市芸術文化教育プラットフォーム学校プログラム	(再掲)	5校実施	今回は筆の体験を中心に、スティールパンやタップダンスの体験、また和太鼓体験など小中学生へ文化芸術体験ができる機会を提供した。また昨年に引き続き特別支援学校の生徒へ生演奏(アコースティックギター、ピアノ)をして演奏鑑賞していただくなどの取組みを行った。		
	3 若い世代の文化芸術活動の応援	若い世代の利用者の促進と拡大	■中高生の文化芸術体験機会を広げるため、新たにチケットのジュニア割引を実施する。	実施	実施	今年度は若手落語会とギターカルテット「LIBERTA(リベルタ)」公演でジュニア割引を実施した。「LIBERTA(リベルタ)」のメンバーは公演活動以外にギター講師として活動しており、公演の企画のなかで学生券を設定し、学生(受講生)も公演を鑑賞しに来館した。		
		子どもたちへの支援と地域連携の実施	■小中学生に向けた事業のウェルカムジュニア「施設のお試し体験」「お仕事体験」を実施する。 ■地域の学校と連携し、若い世代が舞台上に立つ機会の提供や連携した地域活動を実施する。	実施	実施	イベントではホール技術担当者による参加者への説明があり、照明のあて方などの実体験を実施した。ホール設備の解説から、バックヤードツアーなどのプログラムを開催した。 光のぶらむなあとでは、水辺の光コンサートのステージで日枝小生徒が制作した展示作品を紹介する活動発表を開催。またLIBERTA(リベルタ)公演では、当館のギター講座である若手講師の参加するカルテット公演を調整し、ホールステージで初めてのコンサートを開催した。(LIBERTA(リベルタ)公演はレストランや屋外での演奏を中心に活動実績があったが、施設ホールでの公演は初開催)		
		若手芸術家への支援	□若手落語会	1回	1回 114名	落語芸術協会所属の二ツ目、桂麿治と地元南区出身の春風亭かけ橋を招き若手落語会を開催した。		
	4 市民の力を引き出すための、市民とともに企画した事業の実施		□参加型ライブイベント「吉野町音楽空間」	1回	1回 256名	今回で7回目となった対バン形式のライブ演奏会「吉野町音楽空間」では9組の市民アーティストが参加した市民参加型事業を開催した。出演者募集の段階から岩間市民プラザと広報協力を実施。今回初めてみどりアートパークとも広報協力を互いに行い、今年度はみどりアートパークで1回のみどり音楽空間を開催した。		
			□子どもの演奏やダンスの発表「水辺の光コンサート」	1回	1回	水辺の光コンサート開催にあたり、実施への調整から当日運営の手伝い、技術協力及び機材の貸出を行った。今回はコロナ禍明けの開催となり、イベント開催日の2日間ステージをフル開催した。		
	5 文化団体や文化活動をする人の活動への協力	ギャラリーホワイエの活用と利用促進	□「わたしのギャラリー」への出展	30点	計55点	年間を通して継続利用していただき、毎月作品を展示替えして展示していただくなど発表の場を継続的に提供した。展示方法や作品の撮影方法など活動のサポートを行い継続利用につなげることができた。		
		ソーシャルインクルージョンと地域連携の促進	□「FUN!FUN!FUN!」イベント	1回	1回 71名	障害者と健常者が参加する地元ダンスチームと共催しディスコ形式で企画。また地元ケアプラザと企画協力、広報協力などを連携しダンスイベントを開催した。ソーシャルインクルージョンの企画として参加チームの門戸をひろげた自主事業を開催した。		
□「チャリティサンタ」プロジェクト			2日間	2日間	地元ケアプラザと連携した南区民対象の「みなみクリスマス」と市全域が対象となる「チャリティサンタ横浜」のプロジェクトに参加。みなみクリスマスでは当館を拠点に約30家族にプレゼントを届けるイベントに協力した。			

令和5年度 横浜市吉野町市民プラザ 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

4 文化芸術活動を媒介として地域の人々を結びつける(使命4)	1 市民が行う文化芸術活動を通じた街づくり活動の支援と協働		■大岡川アートプロジェクト「光のぶろむなあと」に参画し多様なネットワークを構築する。	実施	実施	今年度はコロナ禍明けで、実行委員会とコロナ禍前のフルプログラムを目指して企画協力に取り組んだ。今回は日枝小3年生の作品展示でのイベント参加に協力を行い、水辺の光コンサート当日運営だけでなく、参加者募集も合わせてイベントに協力した。2日間のコンサートを開催したが、出演団体の数を増やしていくことも課題(今回出演数は11団体)。	【成果】 今年度の「光のぶろむなあと」はコロナ禍前の水準まで近づけることをコンセプトにイベント内容を企画、そのため「水辺の光コンサート」を2日間フル開催する為に、出演者募集の協力やイベント運営の協力を行った。また今年度は計画、準備の予定だったが1年間の準備期間をかけてインクルーシブワークショップ(3館連携事業)として、スクランブル・ダンスプロジェクトのダンスワークショップを、岩間市民プラザ、吉野町市民プラザそれぞれで開催し、成果発表会の場として、関内ホール小ホールで公演を開催した。	【評価できる点】 ・大岡川アートプロジェクトである「光のぶろむなあと」を参画し、地元小学生の作品展示に向けた協力したことについては、使命4の文化芸術活動を媒介として地域の人々を結びつける取組であり、評価できます。 ・地域間連携として、睦町公園映画会実行委員会の開催に当たり、機材の貸出や技術スタッフの派遣に協力したこと及び水辺の光コンサートについて、地域と連携した事業であると確認でき評価できます。	
	2 市民と施設の良好な関係を築き、地域コミュニティの中核として認識される運営の実行		□南区の夏祭りなどに出席し、大岡川アートプロジェクト実行委員会と協働して、子どもを対象にした制作ワークショップを実施	1回	1回	日枝小教諭に協力し、3年生を対象にした「竹の灯笼」づくりを企画協力。光のぶろむなあとで作品展示を行い、水辺の光コンサート会場で3年生による活動発表を行った。			
	3 近隣文化施設や各種文化団体、商店街、自治会等とのネットワークの構築連携事業の実施	異なる領域の市民利用施設による施設間連携ネットワークへの参画		■地域の施設間連携ネットワークに参加し、地域センター、ケアプラザ、スポーツセンター、図書館などと継続した関係を構築する。	実施	実施	地域間連携として睦町公園映画会(屋外)の実行委員会に参画し、開催に当たり機材貸出と技術スタッフを派遣し協力した。また、光のぶろむなあとでは水辺の光コンサートの運営及び日枝小の作品展示、活動発表会に協力した。		【更なる取組を期待する点】 ・地元地域のイベントについては、継続して団体や文化団体などのネットワークを繋いでいけるよう取り組んでください。 ・SNSについて、継続して発信する姿勢については評価できますが、発信するだけでは集客には繋がりがづらいです。発信した結果インプレッションはどのくらい得たかなど数字の分析をし、取り組んでください。
			LC(ローカルコミュニティ)プランの実施	■既存の地域コミュニティが団体利用をする場合は、30%の割引となる「LCプラン」を適用する。	実施	実施準備	地元地域のお三の宮地区としてホールにて「一足早いクリスマス会」を個人カードで利用あり。次回利用時までには団体登録など提案予定。地元町内会との連携を行い地域行事に協力する。		
	4 事業プロモーション活動を通じた地域への人の呼び込みと地域のにぎわいの創出			■tvkの番組「猫のひたいほどワイド」で、市民プラザの事業を告知する。	実施	実施	年間5回に分けて、それぞれ自主事業の紹介及び告知をお昼のワイド番組にて放送した。		
				■市民プラザや地域の魅力をSNSで発信する。	実施	実施	今年度からX(旧twitter)に切替、毎月地域の情報と自主事業等や私のギャラリー作品紹介等の発信を継続した。		
				■情報コーナーを館内に設置し、地域情報を提供する。	実施	実施	地元団体等から掲示依頼や置きチラシの依頼があり、継続して受け入れて、当館3階掲示版へ掲示した。		
	5 市民プラザが「みんなの広場」となるような取組の実施			□インクルーシブワークショップ(3館連携)	計画・準備	実施	今年度計画、準備の予定であったがソーシャルインクルージョンをテーマに、約1年間かけてインクルーシブダンスイベントを計画実施した。スクランブル・ダンスプロジェクトを岩間市民プラザと当館でワークショップを行い、その発表会場として関内ホール小ホールにて公演を開催した。		
				■ギャラリーホワイエをギャラリー利用者の交流スペースやオープンなイベントの開催に活用する。	実施	実施	ギャラリー利用の主催者にギャラリーホワイエを表彰式や休憩スペース等で利用いただいた。また大佛次郎没後50年記念として大佛次郎記念館とコラボレーションした写真展示事業での活用や、みなみ桜まつりへ協力して南区80周年記念パネル展への会場提供を行った。		
	6 「市民プラザ未来開発プロジェクト」の実施	文化芸術の力による地域コミュニティの再生		■継続開催が難しくなってきた「光のぶろむなあと」の再興を目標としたまちづくり運動を繰り広げる。	実施	実施	光のぶろむなあとでは水辺の光コンサートにおいて、出演募集や出演団体の紹介など2日間のフルプログラム開催を目指して協力した。また日枝小生徒の作品をイベントに展示する為、竹の灯笼づくり実施の協力を行った。その構築を含め実行委員会と連絡調整し、当日運営に向けてもできる協力は次かきず行った。		
実演芸術配信・アーカイブス構築(3館連携)			■配信可能なコンテンツや無観客ライブ配信などをアーカイブスとして構築し、専用サイトで配信する。	実施	実施	映像講座の作品をホームページで閲覧できるようにする等、今後もWEB上での映像発信に取り組んでいく。吉野町音楽空間のステージを収録し、HP上で出演曲の一部を発信できるよう準備した。			
次世代来館者の育成			■施設の利用を激変させる世代交代に対応できる地域の人材を育成する。	実施	実施	長年継続し開催してきたギター講座においても世代交代を余儀なくされている。横浜で育った若手ギター講師の参加するギターカルテットの公演を共催し、人材育成の意味も含め共催事業としてギター公演を企画実施した。また岩間市民プラザ主催で開催されているバイオリンのクラシック公演に吉野町市民プラザ次世代のギタリスト(ギター講座)講師を出演調整し、次世代の人材育成について2館連携するなどの取組も行った。			

評価項目			令和5年度計画		実施状況		評価	
II 施設運営	指定管理者提案(要旨)	取組内容	目標	実績	説明		自己評価	行政評価
1 利用者意見の収集と対応(使命1-(2))		■すべての自主事業で利用者へのアンケート等を実施し、業務改善につなげる。	実施	実施	自主事業のアンケートについては毎回実施し、その結果の改善点等について、事務室内でもアンケート結果を共有し、以降の企画や施設運営に反映させた。		【成果】 ギター講座では、参加者より演奏したい曲などアンケートをとり、成果発表会の場で演奏曲として採用するなど、自主事業参加者の満足度をあげる取組みを行った。 【課題】 自主事業の利用者アンケートで、複数回当館に来館したことがあると回答した来場者は概ね満足度が高い傾向にある。新しい意見や要望を回収し、新規の来場者を増やす為、既存の自主企画の内容を再検討して新規来場者増やす新しい試み及び企画を取り入れていくことを検討する。	【評価できる点】 ・市民プラザ合同研修で通常業務の引継ぎ方法や会議については欠かさず実施し、施設運営面での課題やイベントについて検討したことについては、組織的な運営を確実に実施するために対応したことであり評価できます。 ・研修については、計画どおり実施し、新予約システム研修については、問い合わせが多く見受けられることから回数数を目標より多く実施したことが確認できます。
1 必要人材の配置と職能	情報の共有	■施設の管理運営は必要な職能を有する人材を配置する。	実施	実施	自主事業を企画するスタッフや広告を制作するスタッフ、舞台技術者によって、貸館、自主事業の円滑な運営など、施設運営に必要な職能を有する人材を配置して運営を行った。		【成果】 市民プラザ2館合同研修(文化政策研修、アイデア研修)を吉野町市民プラザで行った。申し送りの手法の確保や朝礼、職員会議については毎月欠かさず行った。プロジェクト推進会議や企画検討会については、今年度は主に3館連携事業の打合せを行い、同時に現在の施設運営面での課題や来期連携イベントの方向性について検討した。 【課題】 今年度は職員を含むスタッフが半期毎に数名入替があり、かつ新予約システムへの変更があった為OJTも含めたスタッフ教育、研修に対応した。今年度発生した事務処理ミスについての再発防止策として、職員同士の引き継ぎや当館から利用者へ発信するメールのダブルチェックは引き続き実施を徹底する。また、既存にある各種会議の中で、新たに抽選期間前のイベント等のスケジュール確認を議題に組み込むなどの確認作業を行い予約ミスを防ぐ。自主事業については、昨年度手順書を新たに作成して、スタッフへ改めて周知したことに加えて、職員が異動したタイミングでも同様に手順書をもとに引継ぎを行うなど申し送りを徹底していく。	【更なる取組を期待する点】 ・職員同士の引継ぎやイベントスケジュールなどについては対応方法を認識するとともに、スピード感を求めすぎず、確実に情報共有をするとともに正確性を重視して取り組んでください。 ・事務処理ミスが発生した件については、「なぜ発生したか。」「どこが原因だったか。」を職員間で意見交換いただいたうえで再発防止に努めてください。また、複数人での確認も大切ですが、件数によってはルーティンワークになるため、見落としの可能性も十分にあります。「早急に処理する」ではなく、「送付先が確実に間違っていないか」、「正確性を書いていないか」を重点にし取り組んでください。 ・広報方法については、WEB板の告知も大切ですが、特に若い世代については、ブログやSNSで情報を得て知ることが多いです。施設をはじめて行かれる人がわかりやすいよう施設の利用方法や施設情報を盛り込み、併せて事業について、発信してみるのもよいと思います。
		■情報をすべての職員で共有するため、グループウェア、Eメール、引き継ぎノート、回覧、掲示板などを活用する。	実施	実施	事務室スタッフ全員に向けて発信するグループウェアの活用、受付スタッフ情報共有の為に引継ぎノートの活用など日々の運営に必要な情報共有を図り、スピード感をもってお客様対応できるよう心掛けた。			
		□朝礼(出勤スタッフ全員)	毎日	実施	休館日以外の開館日は、毎日欠かさず申し送りや貸館状況などを共有する為に朝礼を行った。			
		□職員会議(スタッフ全員)	月1回	実施	コロナ禍が明けていくなかで、施設の運営状況や自主事業の運営状況などを共有し、業務の変更点についてはスタッフ全員で協議し、詳細の運営方法について議論し共有した。			
		□運営会議:運営面の課題、ノウハウの共有	四半期に1回	実施	共同事業体各社による情報共有と施設運営に有効な情報及び課題について打ち合わせを行った。			
	円滑な管理運営のための各種会議の実施	□プラザ連絡会議:施設運営のすり合わせ、共同企画	四半期に1回	実施	施設運営の課題共有と主に3館連携事業について打合せを実施。インクルーシブ事業及び横浜トリエンナーレ応援企画についても打合せを行った。			
		■必要に応じて企画検討会(館長・副館長・企画コミュニティ担当)を実施する。	随時	実施	3館連携事業の企画実施のため、吉野町、岩間市民プラザの事業担当者、tvkコミュニケーションズ本社企画担当、関内ホール職員が参加し、企画検討を行った。			

令和5年度 横浜市吉野町市民プラザ 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

2 組織的な施設運営(様式14、15)	3 主要人材の能力担保に向けた基礎研修の実施	■必要に応じて一体プロジェクト推進会議(館長・副館長・担当者・プロジェクト統括マネージャー)を実施する。	随時	実施	3館連携事業の企画調整や、市民プラザホームページ更新などイベント実施及び来期にむけての準備等について打合せを行った。
		■職員各々に応じたOJTについて年間を通じて実施する。	実施	実施	職員の異動等による配置入替があり、今年度は広報、事業担当が配置替えとなった為OJTを年間を通じて実施した。
		□接遇マナー研修	1回	1回	受付人員を中心に、接遇マナー研修を行った。新予約システムの導入もあり、新設や変更点も合わせて研修時に確認した。
		□人権研修	1回	1回	消防訓練の中で、大災害時の避難における注意点をレクチャーしていただくことと同時に、元女性消防士(川崎消防女性一期生)をお招きし女性消防士の誕生や歴史、人権についてもあわせて講義を受講した。
		□バリアフリー研修	1回	1回	南区社会福祉協議会に協力を要請し、主に目の不自由な方の誘導について現場で研修を行った。バリアフリーに研修ということもあり、車椅子の使用注意点などもあわせてレクチャーを受けた。
		□個人情報保護法研修	1回	1回	新規スタッフ採用時の個人情報保護研修と同時に、在職の受付スタッフに個人情報保護法について説明。またスタッフ全員に対し個人情報保護法について研修を行った。
		□コンプライアンス研修	1回	1回	その他の研修と同時に実施。個人情報保護法の解説と合わせて法令遵守について注意すべき点を解説した。
		□防災訓練	2回	2回	全館避難誘導の訓練や南消防立会のもと火災発生時の避難訓練を行った。合わせてAED講習等を実施した。
		□危機管理研修	1回	1回	ヒヤリハット事例をもとに、過去事例を説明。不安全行動や不安全状態、不測の事態が起こった時の対処法など説明。
		□救急救命講習	1回	1回	南消防署の協力で、救急救命講習を実施した。
		□機材研修	1回	1回	舞台技術者による機材研修をスタジオAに集まり、機材使用について問合せの多い機材の使用方法について解説した。
		□受付業務研修	2回	4回	新予約システムのスタッフ研修と合わせて、受付業務について新規スタッフを中心に解説した。
		■必要に応じて新規採用者・新規配属者研修を実施する。	随時	実施	4月、10月、3月採用のスタッフがあり、採用後に研修を実施した。
		□文化政策研修(市民プラザ2館合同研修)	1回	1回	文化政策研修として、文化commons研究所職員を招いて、関内ホール、岩間市民プラザ職員と合同で研修を実施した。
■アイデア研修(市民プラザ2館合同研修)	随時	1回	文化政策研修後、岩間市民プラザの職員とアイデア研修を実施した。		
3 施設全体の運営に対するアイデア・ノウハウの一層の活用(様式25)	1 市内に拠点を置くメディアを代表する企業とする強みを活かした広報・プロモーションに対する取り組み	□tvk番組内での告知情報の発信	3回	5回	tvkお昼のワイド番組「猫のひたいほどワイド」で吉野町市民プラザの自主事業を告知した。また若手落語会の15秒スポットCMを60回放送した。
		■タウンニュースなどの地域メディアと連携した情報発信を行う。	実施	実施	タウンニュースでは当館自主事業の告知だけでなく、地域連携、協力した記事も発行された。また広報よこはま南区版でコンスタントに自主事業について情報掲載し、3館連携については広報よこはまの有料出稿で掲載した。
		■ホームページやSNSを活用した自主事業などの情報発信を行う。	実施	実施	当館ホームページ及びX(旧twitter)にて自主事業の告知を行った。
	2 関内ホールとの3館連携	■岩間市民プラザ、関内ホールと連携し横浜全体で楽しむ事業を展開する	計画・準備	実施	ソーシャルインクルージョンをテーマに、ダンスイベントを3館連携事業として関内ホール小ホールで開催した。公演の他にミュージシャンとのミュージックセッション、アフタートークとして横浜赤レンガ倉庫1号館館長などを招きトークイベントを同じプログラムの中で開催した。
		3 コミュニティ形成への寄与	■地域で災害が発生した際に、施設2階はボランティア拠点として提供する。	実施	実施
	■災害時は学童保育へ施設の一部を提供する。		実施	実施	蒔田公園の学童受入れを前提とするが、火急を要する場合に施設の一部提供するなど避難拠点として想定できるか、災害ボランティアネットワークのシュミレーション訓練時にあわせて検討した。
4 その他施設運営に関する事項	1 休館日の届け出	■休館日、開館時間について年度ごとに横浜市へ届出を行う。	実施	実施	年度毎の申請届出として休館日、開館時間について申請し横浜市へ届出を行った。
	2 目的外使用料の申請	■自動販売機、携帯中継アンテナ等の目的外使用の申請について横浜市へ届出を行う。	実施	実施	年度毎の申請届出として自動販売機の目的外使用について申請し、届出を行った。
	3 財務状況の確認	■財務状況の確認のため、横浜市の要請に応じ財務状況について確認できる書類を提出する。	実施	実施	財務状況の確認について、横浜市より要請があり次第確認できる書類を提出する。
					<p>【成果】 地域連携事業や地域協力をを行い、タウンニュース記事に市民プラザの情報を掲載していただくなど情報発信した。またtvk番組内での自主事業の告知やSNSを定期的に更新する等テレビやホームページでの情報発信や記事についてこまめに情報発信するように更新した。関内ホールとの3館連携事業については、広報よこはま(広告枠)及び毎日新聞へ広告出稿を行い、テレビスポットCM(15秒)を放送し、3館で協力して宣伝広告を行った。3館連携事業については、3月3日(日)にインクルーシブ事業として「スクランブル・ダンスプロジェクト」公演を開催した。</p> <p>【課題】 タウンニュース社内の機構改革により、南区版単独紙面がなくなり西区・中区・南区版となった。記事の掲載依頼についても南区版とは異なる掲載依頼になると思われる為、単独での記事掲載が減った場合はWEB等でカバーしていくことが課題。関内ホールとの3館連携は来期以降の事業について今後企画内容を検討する。災害ボランティア等地域との連携については、地域との関係性を構築、または維持して緊急時に備えることができるように活動を継続する。</p> <p>【成果】 年度ごとの休館日、開館時間の届出及び自動販売機目的外使用許可申請など実施した。</p> <p>【課題】 財務状況等について、エネルギー価格の高騰など不安定要素は残るが、財務バランスの取れた収支計画へ、その時々々の社会環境にあわせて変更していく。</p>

令和5年度 横浜市吉野町市民プラザ 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

評価項目		令和5年度計画		実施状況		評価		
III 施設管理	指定管理者提案(要旨)	取組内容	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1 保守管理業務(使命5)	施設の総合管理による安全・安心の提供と効果的な維持管理	設備保守管理業務	■日常巡回で設備点検、清掃等、環境に配慮した清潔で安全・安心な施設管理を行う。	実施	実施	閉館日は毎日施設内巡回を行い清掃点検、設備点検を行った。設備の不具合についてはメンテナンス担当に都度連絡を行うなど迅速な対応を心掛け安全性、清潔な環境確保に努めた。	【成果】 設備機器等故障や不具合内容について、現場で小破修繕の対応できるものは不具合を解消する努力を継続して実施した。(建具関係やスピーカー等機材の一部更新)。一方、外壁タイルの欠損や正面入口庇及び屋外空調機配管の膨張タンク漏水等については、小破修繕で対応できるものではなく、発見後及び応急措置後に市へ報告し、修繕希望(内容)の報告を行った。機械や備品の状況については日常及び定期点検で確認を行い、日常清掃から定期点検まで計画通りに業務を行った。 【課題】 経年劣化については、空調機器配管や外壁、庇など見た目にも劣化が顕著な状態の箇所がある。特に正面入口庇の水漏れなどは利用者に影響を与えることもあるため修繕のため市に現場調査を依頼している。一方で、劣化しているが、年数経過の割には状態のよい設備もある。不具合内容などその都度、市と相談しながら施設運営にあたり安全性の確保や快適性の確保を継続していくことが課題。	【評価できる点】 ・日常的に点検し、設備機器などに不具合が確認された場合は小破修繕を実施したということが確認できます。安全性を確保し、利用について、影響が出ないよう取り組んだことが確認できます。 【更なる取組を期待する点】 ・小破修繕で対応できないようなについては、引き続き発見及び応急措置後に市へ報告し、今後の対応方法について優先順位を経て、できる限り計画的に修繕できるよう実施してください。 ・災害ボランティア活動拠点になることを念頭に関係所管施設と連携しながら防災訓練やAED講習を確実に実施したことを評価できます。吉野町市民プラザは川が近いエリアであるため、スタッフ間での危機意識は大切です。継続して不測の事態に備えるよう訓練を実施してください。
			■法定点検・日常点検・定期点検を行い備品の状況を把握し、良好な状態を保つ。	実施	実施	日常点検から定期点検、法定点検を行い、備品の管理状況を把握して、不具合に対応することで利用者が安心して施設利用できるよう管理点検に努めた。		
			■感染症対策を実施し、利用者が快適に利用できるよう、施設を清潔に保つ。	実施	実施	新型コロナウイルスが5類相当へ移行されたが、各所の消毒、換気は施設利用後毎回欠かさずに行った。受付のビニールパーテーションも継続して設置し、感染症に注意しながら業務に取り組んだ。		
			■中長期的な修繕計画を立て、施設・設備・備品等の長寿命化に努める。	実施	実施	不具合の確認後、対応できる範囲で小破修繕を行いながら、施設、設備機器、備品等の管理を日々行った。不具合の発生後は市へ報告相談を行い、設備不具合について臨機応変に対応していけるよう維持管理に努めた。		
			■不具合対応は優先的順位をつけながら、横浜市と協議の上修繕を行う。	実施	実施	利用者の安全性の確保、利用についての影響がでないよう市と協議の上、対応できる範囲の修繕を行った。		
			■効率的で安定的な施設運営を図る。	実施	実施	備品など購入する以外に創意工夫で対応できるものはスタッフの製作で対応するなどの効率化を図った。利用者のニーズに応えられるものは対応し、安定的な施設運営を心掛けた。		
2 環境維持管理業務(使命5)	施設の総合管理による安全・安心の提供と効果的な維持管理	日常清掃・定期清掃 廃棄物処理及び環境への配慮 空気環境測定	■「指定管理者業務の基準」及び「同別添資料」に記載された環境維持管理業務を、地球環境に配慮しながら、快適な環境を維持する。	実施	実施	利用者が快適に施設を利用できるよう日常清掃を行い、加えて定期清掃(床面、窓等)を行い施設の状態を清潔に保てるよう施設管理を継続して行った。	【成果】 日常清掃や日常点検により清潔さ、快適性の確保に努めた。ごみ分別を徹底して行うことでごみ発生を抑制する等、意識的に環境配慮を行った。 【課題】 吉野町市民プラザは「建築物における衛生的環境の確保に関する法律(ビル管法)」の対象物件ではないが、日常清掃等の業務を欠かさず行うことにより環境へ負荷を軽減することを継続して行う。	
			■年間排出計画を定めて適切な分別、リサイクル化の推進など廃棄物の発生を抑制する。	実施	実施	ごみの分別とリサイクル用品の分別を徹底し、廃棄物量の削減を心掛けて廃棄物の発生を抑制することに努めた。		
			□定期的に空気環境測定を実施する。	随時	実施	利用者の施設利用前、利用後に温湿度の状況を確認し室温の環境について快適に利用していただけるよう管理を行った。		
3 保安警備業務(使命5)	施設の総合管理による安全・安心の提供と効果的な維持管理 地域の安心拠点としての行政や警察との連携	リスクを想定し、対処方法や対応体制を定めるリスクマネジメントの徹底	■開館中は施設内巡回、監視カメラで常に状況を把握し、異常が疑われる際には職員が現場確認して関係機関に通報する。	実施	実施	事務室職員及び受付スタッフが監視カメラで常に状況を確認している。異常が疑われる際は職員が現場に行き対応できるようにスタッフと連携をとって対応した。	【成果】 日常の警備体制については、吉野町交番や南警察署の警備課と連携し、相談しながら不測の事態が発生した際の迅速な対処をしていくことができるよう、確認した。 【課題】 2階ホワイエの休憩スペースは施設利用者以外の方の利用が増えており、声を荒げる粗暴な来館者もいた。監視カメラで状況確認しているが当館だけで不測の事態を乗り切ろうとはせずに、南警察署や吉野町交番の職員と連携して、スタッフや利用者の安全性を確保していくことを継続する。	
			■最終退館から出勤までは機械警備で監視し、異常時は警備員が急行する体制を整える。	実施	実施	機械警備については欠かさず実施しセキュリティ管理を毎日行った。		
4 防火・防災等(使命5・様式14)	平常時の防災対策	リスクを想定し、対処方法や対応体制を定めるリスクマネジメントの徹底	□消防法に基づき、甲種防火管理者を選任した上で防災計画書を作成	実施	実施	甲種防火管理者を選任して、防災計画書を作成した。	【成果】 防災訓練については、地震の際の避難誘導や火災発生時の初期対応、救命救急講習、危機管理講習など昨年に引き続き、スタッフ間で危機意識を共有しながら行うことができた。また水再生センターとの合同訓練実施や、南消防署職員によるAED講習など計画通りに実施した。 【課題】 当館は災害ボランティア活動の拠点となる。近年地域で発生している地震、津波などの予測を超えた大地震が起こったことを前提にして、南消防署と相談しながら訓練の内容を検討する。	
			□統括防火管理者を選任し、全館合同で防災訓練を実施	防災訓練 2回	2回	統括防火管理者を選任し、吉野町ポンプ場職員(水再生センター職員)と合同で防災訓練を行った。		
			□防災計画等の情報共有のため、併合施設と定期的に管理者連絡会を開催	2回	2回	水再生センターの職員と合同で防災訓練を行うだけでなく、防災計画について情報共有しながら随時連絡相談を行った。		
			□危機管理マニュアルを作成し、自衛消防隊を設置するとともに、AEDの操作訓練を含む消火訓練などを実施	消火訓練 1回	1回	南消防署によるAED操作訓練及び防災訓練のなかで消火訓練を水再生センター職員と合同で行った。		
5 緊急時の対応(使命5・様式14)	施設の総合管理による安全・安心の提供と効果的な維持管理	リスクを想定し、対処方法や対応体制を定めるリスクマネジメントの徹底	■地域で災害が発生した際に、施設2階はボランティア拠点として提供する。	(再掲)	実施	2/2災害ボランティアネットワークの活動として、シュミレーション訓練を2階ギャラリーで行い、課題等の整理を行った。	【成果】 災害ボランティアのシュミレーション訓練を2月に行った。南区総務課地域防災担当とも、連携詳細について相談を行った。 【課題】 学童の受入れ等については、地域と連携をすすめて受入れ体制について検討する。	
			■災害時は学童保育へ施設の一部を提供する。	(再掲)	実施	蒔田公園の学童受入れを前提とするが、火急を要する場合に施設を一部提供するなど避難拠点として想定できるか検討した。		
			■大規模災害に備え、保存食など災害備蓄品を常備し、適切に維持管理する。	実施	実施	今年度消費期限を迎える災害備蓄品があった為保存食を購入し、災害備蓄品の更新及び管理を行った。		
6 感染症等衛生管理(使命5)	施設の総合管理による安全・安心の提供と効果的な維持管理	新型コロナウイルス等の感染症対策	■日常清掃や施設利用時、点検時にアルコール等を用いた除菌を行う。	実施	実施	日常清掃や施設利用後の点検時に消毒用アルコールを用いて清掃、除菌を行った。	【成果】 感染症対策を徹底して、コロナ禍でも安全に施設運営を行うことができた為、施設利用による感染の発生は見られなかった。 【課題】 5類相当への移行により、コロナ禍の対応についてへ義務ではなくなった。スタッフ個々の感染症対策を継続して注意して対処していただくことが課題。	
7 その他施設管理に関する事項	施設の管理を行う上で必要な資格者の配置		□電気主任技術者(第3種)	配置	実施	資格保有者である共同事業体の維持管理会社(設備管理担当)及び定期点検担当者により定期的な見回りを実施した。	【成果】 資格保有者の常勤は不在だが、電気主任技術者と緊密に連絡相談をしながら設備管理を実行した。 【課題】 設備管理の現場員は不在の為、緊急的な不具合があった際に、設備管理担当とすぐ連携がとれるよう日頃から密に連絡をとっている。	

令和5年度 横浜市吉野町市民プラザ 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

評価項目		令和5年度計画		実施状況		評価	
IV 収支	指定管理者提案(要旨)	取組内容	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1 利用率の目標設定(様式22-C)	利用率の目標	□ホール、ギャラリー、会議室、スタジオA、スタジオB・Cにおいて令和5年度の利用率の目標を設定	ホール 93% ギャラリー 55% 会議室 50% スタジオA 60% スタジオB・C(2部屋) 70%	ホール 95% ギャラリー 48% 会議室 51% スタジオA 62% スタジオB・C(2部屋) 79%	ホール、会議室、スタジオA・B・Cいずれも当初の目標である利用率を達成した。ギャラリーについては7ポイント目標に届かなかった。ギャラリーの定期的にご利用いただいていた地元文化団体の一部では、メンバーの高齢化を理由に団体維持が難しいとのことで、施設利用を行えない状況もある。近隣の学校等と連携し、文化活動支援などを行うことで低下する時期の利用率をカバーする必要がある。	【成果】 ギャラリー以外は、当初の目標の利用率を達成することができた。特に定期的に利用していただく団体の当館利用が続いている為、大きく利用率を下げることなく実績を保つことができています。 【課題】 ギャラリー利用については若年層への訴求や利用形態の検討なども課題であり、割引プランだけではなく、地域の文化活動支援として当館利用につなげることができるよう、企画誘導することも課題。	【評価できる点】 ・各室場ともに目標の増減が見受けられるものの、継続的な利用があったということが確認できます。 ・3館連携事業として取り組んだスクランブル・ダンスプロジェクト公演について、神奈川県補助金を得られたことについて、評価できます。継続して助成金を得られるよう工夫して取り組んでください。 【更なる取組を期待する点】 ・事業別に収支計画を立案し、分析したことを評価できます。また、工夫して経費をできる限り削減し、支出を削減した取組についても評価できます。支出の削減を維持しつつ、あらたな収入を得られるよう検討してください。
2 指定管理料のみに依存しない収入構造(様式23)	1 収支の安定に向けた取組	■新たな利用者獲得のための広報宣伝を実施し、利用者拡大に取り組む。	実施	実施	新たな利用者獲得の為、対バン形式の市民参加型イベントや、参加型のダンスイベントなど昨年に引き続き実施した。	【成果】 事業別の収支分析によって、収支については予測が概ね外れることがないように、事業運営を行うことができた。 【課題】 利用者アンケートの結果を踏まえて、利用者参加型のイベントを増やし、利用率を上げていく取組を検討する。	【更なる取組を期待する点】 ・事業別に収支計画を立案し、分析したことを評価できます。また、工夫して経費をできる限り削減し、支出を削減した取組についても評価できます。支出の削減を維持しつつ、あらたな収入を得られるよう検討してください。
		■施設全体の利用率の1%向上を目指し、市民芸術文化団体、施設、企業、学校などと連携する。	実施	実施	市民参加型のイベントの実施、地域イベントとの連携、協力を進め市民文化団体との交流を図った。		
	2 収入増への取組(使命5)	■事業別収支計画を立案し、結果分析を行うことで集客に役立て、利用収入を安定させる。	実施	実施	事業別の収支計画を立案して、都度結果分析を行った。収支の安定に向けて、企画担当者以外にも情報共有を事務職員内で行った。	【成果】 ホールの直前利用申込みについては、可能な限り受付し、ホール利用をしていただくケースを増やすことができた。今年度は3館連携事業として取り組んだスクランブル・ダンスプロジェクト公演で助成金事業として採用していただいた。 【課題】 事業収支を安定させた上で、収入プラスについて検討し補助金獲得等に取り組む。	
		■館内撮影希望者に対して新たな撮影料金の設定することで利用収入向上を目指す。	実施	未実施	今年度は館内撮影希望者からの相談はなく、実施にまで至らなかった。コロナ禍明けの状況でもあり、リアルイベントの実施が増えたことも要因。		
3 経費削減等効率的運営の努力(様式23)	効率的な施設運営に向けた取組	■利用促進のためホール、ギャラリーを直前まで受付ける。特に、利用率の低いギャラリーについて、3か月を切った場合、展示以外の目的での利用申込みも受付し、ギャラリー使用を可能な限り緩和し、利用率1%向上を図る。	実施	実施	ギャラリーの直前受付はなかったが、ホールの直前受付については、スタッフの対応できる内容を確認し受付を行った。ギャラリーは日枝小教諭(5年生担任)から展示利用について相談連絡があり、貸館の準備をしていたが、別イベントでの活動発表となり直前受付については未実施となった。	【成果】 関内ホールとのスタッフの連携や、広報協力を2館で行うなど効率的なスタッフ運営、事業広告を心掛けた。電力調達については、調達会社を変更して、コスト削減につなげることができた。 【課題】 経費削減や、スタッフの連携等については継続的に行っている。施設管理及び設備管理の対応については、JV構成員である維持管理会社と協力して、小破修繕を行って対応していくなど、コストの意識を担当者と共有していく。	
		■地域の商店街や文化事業企業等とタイアップに取組み、助成金の獲得収入など指定管理料以外の収入を得る。	実施	実施	3館連携事業として取り組んだスクランブル・ダンスプロジェクトの公演については助成金事業(県・マガカル)として申請し採択された。		
		■自動販売機の設置、チケット受託販売、DVD録音サービス、コピーサービス、ごみ処理サービスを行い収入を確保する。	実施	実施	自動販売機収入だけではなく、3館連携や他館の自主事業のチケット販売受託を行って収入増に取り組んだ。		
		■事業企画は費用対効果を考え、年間収支の中でバランスを取る。規模の大きなイベントでは共同事業体の専門技術を活かし、事業費を抑える。	実施	実施	吉野町音楽空間では、関内ホールより技術スタッフの派遣を依頼して協力連携し、経費削減に取り組んだ。また3館連携では助成金の申請、3館及び主催者の協力でスタッフを集め、運営スタッフの発注を行わずにイベント運営を行い経費削減を連携して取り組んだ。		
■電力調達は共同事業体が管理している公共施設と合同で入札を行い、スケールメリットによりコストを抑える。事務用品は再利用をおこない廃棄物削減を推進する。		実施	実施	今年度期間中に、電力調達会社を関内ホールが変更した同じ会社への切り替えを行い、光熱費のコスト軽減につなげた。事務用品については館内で必要な整理整頓を行い、不用品ものは処分をし、使用できるものは再利用するようにコスト削減に努めた。			
V 各種計画書・報告書の作成及び業務評価	指定管理者提案(要旨)	■効率的な運用による事務費・管理費の縮減に加え、クールビズやウォームビズの推進など、職員の意識を高めて経費削減を徹底する。	実施	実施	事務所の空調の温度設定を工夫し(夏は高め、冬は低め)経費削減を徹底した。また照明も共有部においてこまめにオフし経費を抑えるように努めた。	【成果】 業務日報、管理運営月報など欠かさずに作成し報告を行った。事業計画や成果については、職員会議でも共有し、事業実施後の課題整理を行った。 【課題】 今年度も職員異動やスタッフの入退社があり、担当変更にあたり事業成果などの引継ぎについて注意して行った。来年度の引継ぎについても同様に行っていく。	
		■特定の職員に業務が集中しないように管理し、職員それぞれが担当業務のほかに貸館・受付業務を行い、効率的な組織体制をつくり、超過勤務時間を抑制する。	実施	実施	業務状況等を職員会議で共有することで、臨時にフォローアップするなど業務が集中しないように管理した。また、受付業務について事務室職員がフォローするなど超過勤務を抑えるように努めた。		
		■毎月の試算表により執行管理を行い、期中の仮決算で収支予測を立て、修正予算を作成することで収支のバランスを取る。	実施	実施	毎月の収支状況の把握に努めて、収支予測について管理を行った。特に自主事業については、職員内で課題共有するなど収支管理を徹底した。		
■業務日報の作成		実施	実施	業務日報について、年末年始以外の業務日報(日報・月報)を作成し保管を行った。			
■管理運営月報・完了確認書を作成し、モニタリングで報告		実施	実施	毎月管理運営月報、完了確認書を作成。モニタリング時に報告を行った。			
各種計画書・報告書の作成	2 事業計画書・事業報告書の作成・管理	□事業計画書・事業報告書の作成	実施	実施	事業毎に事業計画書、報告書を作成して保管している。	【更なる取組を期待する点】 ・職員の担当変更により、業務の引継ぎ漏れが発生したり、ケアレスミスが起きるリスクが十分にあり、今後も職員間で注意しながら対応してください。	
		□事業計画に沿って成果が見える報告書の作成	実施	実施	報告書に改善点や成果を作成、分析して報告書を作成している。		
3 業務評価の実施		□自己評価	実施	実施	職員会議等で業務評価について発表し共有した。自主事業(イベント)実施後の振り返りで、来年度以降に注意すべき点等についてメールなどを利用してスタッフ間で共有した。		

令和5年度 横浜市吉野町市民プラザ 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

評価項目		令和5年度計画		実施状況		評価	
VI その他	指定管理者提案(要旨)	取組内容	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1 市の重要政策への対応 (様式26)	1 個人情報保護についての取組	<p>■個人情報の保護に関する法令等を遵守し、個人情報を適正に取り扱う。</p> <p>■個人情報の具体的な取扱い方法について記載した「個人情報取扱いマニュアル」を整備する。</p>	実施	実施	<p>事務室内で個人情報があるものについては必ず封筒に入れて、決裁や回覧をするなど慎重に取り扱った。個人情報保護に関する法令についてはスタッフへ説明し、個人情報の適正な運用について意識的に行った。</p> <p>個人情報取扱いマニュアルについて研修時などに配布し、内容について共有、説明した。</p>	<p>【成果】 個人情報の取扱いについては、新規スタッフの研修を含めて年間を通して適正に取り扱うよう心掛けた。研修時などに参考資料の配布を行いながら、管理を徹底いただくようスタッフへ周知した。今年度は女性消防士OGによる人権研修の実施、ソーシャルインクルージョンをテーマにした事業企画を実施することができた。また日常的な清掃やごみ分別を欠かさず行い、環境への配慮を心掛けた。</p> <p>【課題】 社会包摂や次世代育成、男女共同参画については地域と連携しながら、市民プラザとしてとれる対策を継続して実施していく。JV構成社のリソースを生かした情報発信についても事業とともに継続して取り組む。</p>	<p>【評価できる点】 ・目標どおり実施したことが確認できます。引き続き、未実施することが内容取組んでください。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 ・個人情報の取り扱いについては、他施設で誤交付や誤送付が発生しているため、研修を実施する際には、事務処理のスピードを求めるのではなく、確実に誤りがなく対応することを職員間で徹底し日頃から確認もれないようにしてください。</p>
	2 情報公開についての対応	<p>■「横浜市の保有する情報の公開に関する条例」に準じて作成した「横浜市市民プラザ情報公開規程」に基づき、行政文書開示請求等に対して適切に対応する。</p>	実施	実施	行政文書開示請求等については、ホームページにて常時公開している。		
	3 人権尊重についての取組	<p>□人権研修を実施し、職員一人一人が人権尊重を実践するよう取り組む。</p>	1回	1回	人権研修を実施し、人権尊重について意識していただくようスタッフへ解説した。		
	4 環境への配慮について	<p>■施設の環境を維持し、快適な環境を保つため、清掃業務を適切に行う。</p> <p>■施設から発生する廃棄物の排出量削減に努めるとともに、廃棄する際は資源再生できるよう分別処理をする。</p>	実施	実施	<p>利用者に快適に利用していただけるよう日常清掃を欠かさず実施した。</p> <p>ごみ処理について、可燃とプラスチックごみなどの分別を徹底した。備品については整理整頓を心掛けて、利用できるものは再利用して廃棄物の排出を抑えるよう心掛けた。</p>		
	5 障がい者に対する差別解消について	<p>■バリアフリーの観点を運営に取り入れて、利用しやすい施設となることを目指す。</p>	実施	実施	バリアフリーについては、区社会福祉協議会の協力を得て研修を実施。インクルーシブ事業に取り組むなど、障害者の参加できる自主事業を開発するなど、利用しやすい施設を目指して施設運営を行った。		
	6 男女共同参画についての対応	<p>■ジェンダーフリーの観点を運営に取り入れて、利用しやすい施設となることを目指す。</p>	実施	実施	今年度は誰もが分け隔てなく参加できる事業を目指して、ソーシャルインクルージョンをテーマにした自主事業を企画し、2回開催した。ジェンダーフリーについては元女性消防士に人権研修を実施していただくなどの取組を行った。		
	7 市内中小企業優先発注について	<p>■「横浜市中心小企業振興基本条例」を踏まえ、修繕等の発注、物品及び役務の調達等にあって、可能な限り市内中小企業への優先発注に努める。</p>	実施	実施	共同事業体の構成団体は横浜の中小企業を中心となっており、また、地元紙への広告出稿や印刷発注については横浜市内企業に依頼するなど地域の取引を行った。		
2 その他	1 保険及び損害賠償の取扱い	<p>■「指定管理者業務の基準 別添資料」に基づき施設賠償保険、動産総合保険、レジャー・サービス施設費用保険に加入する。</p>	実施	実施	映像講座では屋外の撮影もある為、新たにレクリエーション保険(当日)に加入した。施設賠償保険、動産総合保険、レジャー・サービス施設費用保険に加入している。	<p>【成果】 今年度は3館連携のインクルーシブ事業を関内ホール小ホールで実施した。また継続開催している2館連携事業の他に、新たに公演の出演者ブッキングなど互いに事業協力した。また今年度はインボイス制度の法令改正について対応した。また新予約システムの変更に伴う受付方法についてスタッフ研修、サービスセンターへの相談、市との連絡調整を随時行った。</p> <p>【課題】 新予約システムの対応及び受付でのキャッシュレス化など、来期に向けて引き続き対応する。3館連携事業については今年度インクルーシブ事業を実施したが、その後の連携内容について検討する。</p>	<p>評価できる点】 ・今年度の目標が、「計画、準備」の予定であったインクルーシブダンスイベントを岩間市民プラザ、関内ホールと3館連携して公演を実施したことについて、評価できます。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 ・今回実施したインクルーシブダンスイベントについて、内容や改善点などを生かし、今後も3館継続的に実施することを期待しております。</p>
	2 関係法令等の順守	<p>■現行の関係法令を順守するとともに、法令改正に気を配り、契約等の前に確認する。</p>	実施	実施	今年度はインボイス制度の施行など関係法令に改正もあり、法令遵守について慎重に対応した。		
	3 市及び関係機関等との連絡調整	<p>■事故や不具合時は即日報告とし、随時共有する。</p>	実施	実施	不具合発生時は即日報告を行って事務処理ミスの対応を行った。今後は再発防止策を徹底する。		
	4 2つの市民プラザを一体で運営し、さらに関内ホールも含めた3館連携、またその先の連携を目指す	<p>■2館連携、3館連携事業の自主事業の企画・実施</p> <p>■tvk番組内コーナーでの事業告知を両プラザ交互に実施</p> <p>■人的資源やノウハウを2館共通で活用し、管理・運営面でも連携する。</p>	計画・準備	実施	<p>今年度は、約10か月間をかけて3館連携事業に取り組んだ。ダンス公演の他に、インクルーシブ事業として岩間市民プラザにある借いいわワークス利用者の作品展示にも取組み、横浜トリエンナーレ応援プログラムに申請した。</p> <p>tvkお屋のワイド番組内にて事業告知を行った。</p> <p>昨年度同様に自主事業の運営スタッフの派遣や自主事業の広報協力を行った。またステージ写真講座は岩間市民プラザ共催で開催し、「午前の音楽会」(岩間市民プラザ主催)では出演者を吉野町市民プラザで調整するなど事業協力を行った。</p>		

令和5年度 横浜市吉野町市民プラザ 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

評価	
自己評価	行政評価
<p>【成果】 コロナ禍明けのタイミングであり、地域の主催者がイベントや公演を再実施(復活)させていく傾向が高い年となった。その中、吉野町市民プラザでは、昨年度までに取り組んできた事業の継続と、新たな主催事業の実施と双方に取り組んだ。新規事業では、若手アーティストの支援をテーマに取り組み、「来て見て市民プラザ」企画では、市民団体と一般来場者をつなげる企画に取り組んだ。また、新規事業として3館連携事業にも取り組み、インクルーシブダンスワークショップチームとワークショップ参加者による3館連携事業の公演を関内ホール小ホールで開催した。3館連携事業ではダンス公演のみではなく、岩間市民プラザにある「借恵いわまワークス」利用者の作品を、関内ホール小ホールホワイエと関内ホールバックストリートギャラリーにて展示して、横浜トリエンナーレ応援プログラムに申請した。</p> <p>【課題】 ホームページでのアーカイブ構築や映像コンテンツ配信については、一部取り組んだが、ホームページ更新については来期リニューアルにむけて準備を行っている。運営面においては事務処理ミスがあった為、引継ぎ及びスケジュール確認、ダブルチェックについて徹底する。地域の連携については、地元メディアの機構改革後も新たな関係性の構築を図ること同時に、地域のにぎわい創出の為に市民プラザの役割を新たに提案し、企画や地域連携事業を展開することで、文化施設としての新しい情報発信に取り組む。</p>	<p>【評価できる点】 ○使命1(文化芸術活動をはじめとする市民の活動の場となる)について 貸館の利用率について、令和4年度よりも全体的に増加し、総来場者数が56,089人となりました。多くの市民の方々が貸館利用したということが確認できます。「朝からグランドピアノ」及び「ホールでグランドピアノ」の再開や「ウェルカムプラザ制度」の継続、「来て見て市民プラザ」を新たに実施したことで多くの来場者を得たことが評価できます。</p> <p>○使命2(文化芸術活動への参加の機会を提供する)について 幅広く芸術・文化活動事業を実施したとともに、南区の小学校を文化活動を実施し、光のぶろむなあとというイベントに繋ぐという取組を評価します。</p> <p>○使命3(次世代を担う人材を育む)について ・若手落語会や「ギターカルテット公演を支援し支援するとともに若年層が公演に来館しやすいよう、学生料金を設定した取組を評価します。</p> <p>○使命4(文化芸術活動を媒介として地域の人々を結びつける)について 地域と連携した事業を複数実施したことが確認できます。今後もアーティストや団体の支援をするとともに継続して取り組んでください。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 ○使命2(文化芸術活動への参加の機会を提供する)について ○使命3(次世代を担う人材を育む)について ・WEBでの広報やSNSでの発信を利用及び発信結果を分析し、新たな来館者が得られることを期待しております。</p> <p>・若手アーティストを支援しつつ、若年層が公演などに参加しやすい取組をできるよう今後も期待しております。</p> <p>○使命5(持続可能性を高める施設運営を行う)について ・収入については、予算よりも増加したことが確認できました。支出については、人件費や物価高騰の影響がある部分もありますが、費用を押さえた箇所も確認できました。どの箇所を工夫して費用を押さえることができるか、収入を増やせるか検討してください。 また、3館連携事業として取り組んだスクランブル・ダンスプロジェクト公演について、助成金を獲得することができました。継続して、他の事業でも獲得できるよう企画や検討をしてください。</p>